



防災だより

～ 地域福祉等推進特別支援事業 ～

社会福祉法人
八重瀬町社会福祉協議会

八重瀬町字東風平1318-1
電話：998-4000
FAX：998-8999

社協HP
<http://www.yaeseshakyo.com/index.html>

さいがいがい つよ や え せ ちやう め ざ
災害に強い八重瀬町を目指して!

平成25年度 長毛団地避難訓練



へいせい ねん ひがしにほんだいしんさい へいせい ねん がつ はっさい やまぐち しまねごうらう がつ たいふう ごう
平成23年の東日本大震災や、平成25年7月に発災した山口・島根豪雨、10月には台風26号
きろくてき おおあめ どしゃさいがい ぜんこくかくち だい き ぼ さいがい たはつ さいがい じぶん
による記録的な大雨での土砂災害など、全国各地で大規模な災害が多発しています。災害から自分の
み たいせつ かぞく きんりん ひと まも じじよ ひとり みずか み まも
身や大切な家族、近隣の人たちを守るためには、「自助」(一人ひとりが自らの身を守る)ととも
ちいき たす あ きょうじよ か
に、地域で助け合う「共助」が欠かせません。

ほんひなんくんれん ちいきじゅうみん ぼうさいいしき けいはつ さいがいじようえんごしゃ みまも しえんたいせい すいしん
そこで、本避難訓練は、地域住民の防災意識の啓発や、災害時要援護者の見守り支援体制を推進
さいがい つよ ちいき もくてき じっし
し、災害にも強い地域づくりを目的に実施しました。

平成25年度 長毛団地避難訓練の実施

日 時：平成26年2月16日(日) 午前11時～

場 所：長毛団地集会所、集会所前広場

対象者：長毛団地住民

内 容：①避難訓練 ②安否確認訓練 ③応急救護訓練

④消火訓練 ⑤炊き出し試食 ⑥防災講話



訓練開始前にあいさつをする
八重瀬町社会福祉協議会 神谷 榮助 会長



長毛団地対策本部立ち上げ宣言をする
長毛団地自治会長 大城 磨 氏



避難勧告が発令され、住民に避難するよう呼びかける避難呼びかけ班。



広場へ避難してきた住民は各班長のところへ行き、安否を報告します。



災害時要援護者への避難呼びかけ、広場や4階への避難支援も、住民の方が協力して行いました。



担架の代わりに毛布を使用した負傷者の搬送訓練。



身近にあるカサやタオルを使った応急手当のシミュレーション。



津波警報が発令され、住民は団地4階へ避難。4階の海拔はおよそ30mです。



訓練用の水消火器を使った消火訓練。



八重瀬町赤十字奉仕団の協力による炊き出し。



階段での車いすの介助方法を、住民のみなさんと実践しました。



訓練終了後に防災講話を行いました。



日頃から災害に備えている大城眞栄氏より、非常持出袋の中身を披露していただきました。

「長毛団地避難訓練」アンケート集計結果より

訓練を終えての意見、感想

- 10代 非常食の試食、消火訓練、4階まで上ったりと、災害が起こったときに、自分たちはどうすればいいのかということがいっぱい学べたので良かった。実際に災害が起きたときは、冷静になって指示を聞き、「自分の命は自分で守る」ことを頭に入れます。
- 40代 住民の参加が少なかったと思う。
- 50代 これだけの大規模な訓練は初めてで、実践的な訓練でした。
- 50代 車いすの救護の仕方が分かった。身近にある物でケガ人の応急処置ができると知った。
- 50代 避難時の車いすの介助、火災などいろんな事の対応が見れて良かったと思う。参加して安心して暮らせる感じがします。
- 50代 皆で集まると心強い。一緒にいる（行動する）ことで安心（情報がもらえる）。災害時のことをもう少し真剣に考えたいと思います。
- 50代 日頃からの対策が大事だということが分かった。訓練しているとパニックにならないと思った。
- 80代 住民の参加が少なかった。数多く訓練を繰り返すことによって関心が高まり、訓練の効果が出てくると思う。訓練だとの意識から動作が鈍い。加えて指示者が少ない。リードマンを多く作るべき。

長毛団地避難訓練後の振り返り

日 時：平成26年3月7日（金）午後8時～

場 所：長毛団地集会所

参加役員・協力者の意見、感想

- ◇訓練だということで危機感が足りなかったと思う。
- ◇若い世代の参加が少なかった。
- ◇地震が起きたら高いところへ避難するように言われているのに、一旦広場へ集まるべきなのか？すぐに4階へ避難した方がいいのではないか。
- ◇訓練後、防災に対する意識が変わった。
- ◇訓練開始前に、自治会長と支援者で車いすの操作方法をシミュレーションしたが、要援護者の車いすが自走式でタイヤが大きかったため、シミュレーションどおりにはいかず、要援護者は不安そうだった。タイヤの大きさによっても操作方法が違うので、それぞれの操作方法を覚えていたほうがいい。
- ◇今回は日曜日ということもあり、男性の参加者が多かったので、車いすの介助や負傷者の搬送を男性にお願いできたが、今後は高齢者や女性だけで要援護者を支援できるような方法を考えたり訓練が必要だと感じた。

平成25年度 後原ミニデイサービス防災講話



日 時：平成25年10月25日(金)午後1時～

場 所：後原公民館

参加者：ミニデイサービス参加者24名

内 容：①講話「近年、沖縄で起こった災害について」

②家具の転倒防止策について

平成25年度 長毛子ども会親子防災教室の開催

日 時：平成25年11月24日(日)午前9時30分～

場 所：長毛公民館

参加者：長毛子ども会の親子35名

内 容：①講話「災害に強い地域を目指して」 ②家具の配置と固定の工夫について

③消火訓練 ④炊き出し試食



炎のめがけての消火訓練。
この中に未来の消防士がいるかも…。



災害時に活用する炊飯袋「ハイゼックス」に
お米と水を配分する体験をしました。



八重瀬町赤十字奉仕団のみなさん、炊き出しの
ご協力ありがとうございました。



自分で配分して炊き上がったご飯にカレーを
かけて試食しました。

「長毛子ども会親子防災教室」アンケート集計結果

参加人数：35名(大人11名、高校生1名、小学生20名、幼児3名)

アンケート回収…26部 回収率…74%

意見・感想

- ◇災害の時にいざとなったら準備をしないといけないので、前もって準備をするようにしたい。
- ◇災害について詳しくスクリーンで見れて良かった。いろいろとためになりました。
- ◇ごはん(炊き出し)がおいしかった。
- ◇消火訓練や、料理(炊き出し)が楽しかった。
- ◇災害が起こったら高いところへ逃げたいです。
- ◇今日から話し合いをしよう。
- ◇防災は認識、理解が一番重要であり、地域の助け合いも必要なことから、これからも続けてもらいたい。
- ◇とてもいい経験になりました。家でも防災対策についてもう一度考えたいと思います。
- ◇子供用にもう少し具体的な説明があれば良いと思います。こんな時はどうする、といったもの。地震の時、海にいた場合、スーパーにいた場合など。
- ◇家具の配置、転倒防止策など、改めて考えるきっかけになり、よかった。実際に消火器などを使用する体験ができたことがよかったと思います。

《「長毛子ども会親子防災教室」アンケート集計結果より》

「家庭で防災対策をしているか?」との問いに、「している」と回答した人は26名中8名で、そのうち「家具の固定をしている」が2名、「水や非常食の備蓄をしている」が6名でした。「家庭で防災について話し合っているか?」との問いでは、「話し合っている」と回答した人は26名中わずか6名でした。

長毛地区は低いところで海拔が3mしかなく、大きな地震が起これば、津波の被害も心配されます。避難場所や避難経路を家族間で決めておき、ふだんから散歩がてら歩いて確認しておく、いざという時にも慌てずに避難することができます。また、学校や職場にいる時など、家族と離れている時間帯はどこに避難するか、連絡方法や集合場所も話し合っておきましょう。

災害用伝言ダイヤルの使い方

さいがいようでんごん ひ さい じ けいたいでんわ ふく いっぱん でんわ じょうきょう ひ さい ち
 災害用伝言ダイヤルは、被災時に携帯電話を含む一般の電話がつながりにくくなる状況でも、被災地の
 かた こえ でんごんばん
 方とメッセージをやりとりできる声の伝言版サービスです。

さいがいようでんごん
 災害用伝言ダイヤル

1 7 1

ろく おん じ かん
 録音時間

でんごん ひょうい ない ろくおん
 1伝言あたり30秒以内まで録音することができます。

ほ ぞん き かん
 保存期間

ろくおん か かん じ かん ほ ぞん
 録音してから2日間(48時間)保存することができます。

ちく せき すう 数
 蓄積数

でんわ ばんごう でんごん ちくせき
 1電話番号あたり1～10伝言まで蓄積することができます。

でんごん ろくおん ほうほう
 伝言の録音方法

でんごん さいせい ほうほう
 伝言の再生方法

1 7 1 をダイヤル

1 7 1 をダイヤル

ガイダンスが流れます

1 をダイヤル

2 をダイヤル

ガイダンスが流れます

× × × - × × × - × × × ×

し がいきよくばん
 市外局番からダイヤルしてください。

ひ さい ち かた じ たく でんわ ばんごう
 被災地の方は自宅の電話番号を
 ダイヤルしてください。

ひ さい ち かた でんわ ばんごう
 被災地の方の電話番号を
 ダイヤルしてください。

ガイダンスが流れます

ろく おん
 録音

さい せい
 再生

さいがいようでんごん さいがいようでんごんばん まいつき しょうがつさん にち ぼうさいしゅうかん
 「災害用伝言ダイヤル」および「災害用伝言板」は、毎月1日・15日、正月三が日、防災週間(8月30日～
 9月5日)、防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)に体験利用日が設定されているので、この
 ぼうさい しゅうかん たいけん りょうび せってい
 日を利用して普段から操作に慣れておきましょう。



非常時持ち出し品チェックリスト

災害後の援助や救援物資の到着までに、最低限必要なものは準備しておきましょう。

飲料水・非常食品

- 飲料水
- 乾パン
- 缶詰
- レトルトご飯
- カップめん
- ビスケット・チョコレート・あめ等

貴重品

- 現金（※公衆電話用に10円玉、100円玉も入れておきましょう。）
- 預金通帳
- 印鑑
- 健康保険証
- 身分証明書（運転免許証、パスポートなど）
- 予備のメガネ、コンタクトレンズなど
- 家族の写真（はぐれた時の確認用）

日用品

- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 予備電池
- ローソク
- ライター・マッチ
- マスク
- タオル
- 軍手
- ウェットティッシュ
- トイレットペーパー
- 給水袋
- 衣類・下着
- 簡易トイレ
- 万能ナイフ

医薬品

- 常備薬・持病薬
- 救急セット
- 生理用品

家族構成によって必要なもの

- 粉ミルク・ほ乳びん
- 紙おむつ
- 介護用品
- ペットフードなど



～編集後記～

甚大な被害をもたらした東日本大震災、東京電力福島第1原発事故から3年が経ちました。今なお約26万7千人が仮設住宅や借り上げ住宅での避難生活を余儀なくされ、沖縄県内には973人（※2014年2月13日現在・復興庁まとめ）、八重瀬町内にも避難生活を送っている方々がいます。住み慣れた街に残ることを選んだ人、原発の影響で自主避難した人、県外への移住を決めた人、選択肢は違っても、それぞれが思いを抱えながら精いっぱい生きています。

3年が経過した今、沖縄に住む私たちにできることは、避難者の声に耳を傾け、寄り添い見守ること。被災地に思いを寄せ、震災の記憶を風化させないことだと思います。

社協では、町内在住の避難者世帯の交流会を年に1回行っていますが、避難者世帯だけではなく、地域住民との交流を通して、子育てなどの情報交換やつながりを広げていけたらと思っています。また、被災者に自らの震災体験を話してもらうことで、地域住民の防災意識向上に繋がればと思います。

社協は、今後も地域での避難訓練や防災教室などを繰り返し実施し、住民とともに災害に強い地域を目指してまいります。